リーディングDXスクール事業 【実践事例】

敦賀市立中郷小学校（福井県）

【取組内容①】 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実につながるクラウド活用

本校は今年度の研究主題を「自らの考えを『発信』し、互いに深め、高め合う子の育成～タブレットを効果的に活用した学びを通して～」とした。タブレットを情報の収集や分析、または自己の考えを発信するために使うことができれば、互いの意見の交流が生まれ、より学びが深まるであろうと仮説を立て、下記のような取り組みを行った。

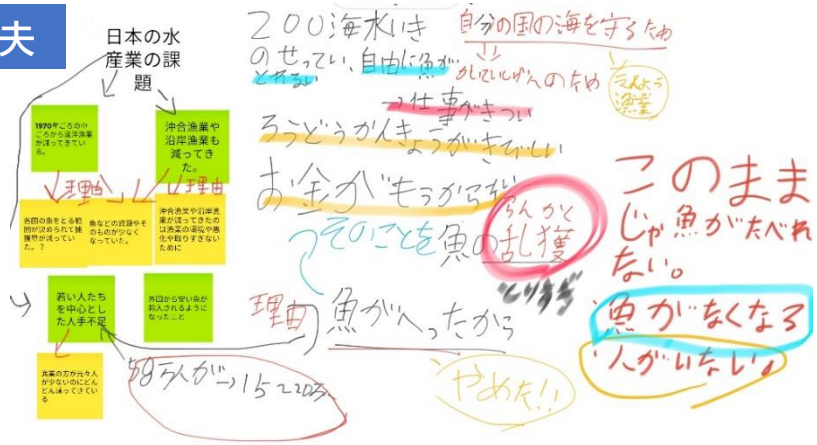
A.Jamboardを活用し、学びを常時共有できるような工夫

思考段階から互いの学びの道筋を共有することで、児童の主体的な対話に繋がるようにしている。

また、付箋カードに短く書き表すことで、授業の要点をまとめることができる。

さらに、コンピュータスキルの差を埋めるべく、キーボード入力だけでなく、手書きもOKとし、自らの技能に応じてより早く簡単にまとめられる方を選択できるようにしている。

Jamboardにまとめるようになり、互いの意見を尊重したり、必要な情報を短くまとめられるようになった。しかしながら、それらのスキルは個人差があり、これらを等質にしていくという課題がある。



B.学習支援ソフトでふりかえりやまとめの工夫

本校では本体容量の小さいiPadを使用しており、無料アプリをインストールする量が限定されるため、ブラウザベースで動くものを利用するようにしている。

この学習支援ソフトでは、学びの履歴を自他で共有するために、一人に一列ずつ割り当て、ふり返りとして活用するだけでなく、教科の見方・考え方ごとに列を作成し、各人がコメントを入力するなどして活用している。

学習支援ソフトの機能の一つとしてリアクションボタンやコメントを書きこめることから、他者からの反応も見ることができるようになり、より分かりやすくまとめを書こうという意識が高まってきている。ただ、元々の文章力により、コメント力や文量に差があり、これらは文章力を引き上げる必要があると考えられる。